

全国初の自治体間連携特養

交流自治体の首長がエクレシア南伊豆を視察

11日、平成30年3月に開設した特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」を、杉並区の交流自治体の首長が視察しました。この特養は、杉並区と南伊豆町が連携して整備したもので、全国初となる自治体間連携によるものです。今回の視察は、12日に南伊豆町で開催される「地方創生・交流自治体連携フォーラム」に合わせて行われ、都市と地方の共存共栄を目指す先進的な取り組み事例として報告されます。

「地方創生・交流自治体連携フォーラム」は、杉並区の呼びかけで、平成27年7月に第一回のフォーラムを開催し、今年で5回目の開催となります。杉並区と交流のある8自治体の首長が集まり、各自自治体が抱える様々な行政課題を共有し、それらの解決のためにそれぞれの強みを出し合い共存共栄を目指しています。

杉並区が南伊豆町に特養整備を検討したきっかけは、平成23年度末に廃止した全寮制の区立小学校「南伊豆健康学園」の跡地活用となります。その当時、杉並区では特養の入所待ちが2,000人程に上り、高齢化が急速に進む中、喫緊の課題となっていました。特養のニーズが右肩上がり増加する一方で、区内には建設用地を見出すことは容易ではない状況でした。

そこで、前例のない全国初の取り組みとして、静岡県・南伊豆町との3者を中心に、7年余の検討を経て開設に至ったものです。開設までに7年の年月を要したのは、介護保険の制度上、圏域を越えて特養を整備することが想定されていないため、国や静岡県の同意を得るために時間がかかりました。また、平成23年に発生した東日本大震災とその後発表された南海トラフ地震の津波予想で、当初の設計変更や建設場所を健康学園跡地から内陸部の南伊豆町の町有地に変更したことも要因の一つです。そうした様々な課題を乗り越えて、杉並区にも南伊豆町にとっても、特養ニーズへの対応につながるとともに、地元の雇用拡大や食材の調達などによる経済効果も見込めるものとなりました。



11日午後1時、9自治体の首長がエクレシア南伊豆を視察。利用者や施設スタッフの声に耳を傾けていました。そして、実際に施設や利用者の姿を目にして、こうした自治体間の連携事業の必要性を改めて確認しました。

■視察参加者

田中良区長（杉並区）、門馬和夫市長（南相馬市）、岡部克仁町長（南伊豆町）、加藤剛士市長（名寄市）、小椋敏一村長（北塩原村）、中澤恒喜町長（東吾妻町）、池田央副市長（青梅市）、大塚昇一市長（小千谷市）、天野多喜雄村長（忍野村）

【問い合わせ先】

保健福祉部高齢者施設整備担当：3312-2111 内線 1181
区民生活部地域活性化推進担当：3312-2111 内線 3771